

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「地域に根差し、知恵と工夫と創造力を持ち、ゆったりとした毎日が過ごせるよう、ひとりひとりの楽しみと健康と安全を考慮しながら、家族の協力を得つつ学び支えます。」 職員全体でホームの在り方を理解し作り上げた理念がある。		
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム内に掲示し日々確認できると共に、会議や勉強会などでも理念に基づいた介護提供がされるように話し合い実践に向けて全体で取り組んでいる。		
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会でも理念について説明しており、玄関への掲示及びパンフレットに記載することで問い合わせや地域住人の方の来訪、見学の際にも広く周知してもらえるよう取り組んでいる。	○	ホームの存在、掲げている理念を知っていただくために、町内会向け便りにも載せて理解を深めるよう取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ご近所の方から差し入れを頂いたり、ホームの農園で採れた野菜を届けるなど交流の機会を持っている。また、近くのコンビニやスーパー、美容室を利用し日常的にホームの存在を知ってもらえるよう努め、介護相談や町内会活動が縁でボランティアに来て頂いている方もおり支え合いながら隣近所とのつきあい深めるよう努力している。	○	町内会向け便りの発行を増やし、継続することで更に親交を深めてホームの周知に努め、支えあう関係を確立したい。
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の活動にはできる限り参加している。町内会向けにホーム便りを発行しており、お声を掛けてくださる方も増えている。毎年幼稚園の運動会にも呼んで頂き交流の機会を大切にしている。	○	幼稚園児の来訪など利用者の状況や地域との関係を考慮し取り組んでいきたい。
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	介護相談があったときには事業所としてできること、皆で支える意識を持つよう話し合い取り組むよう努めているが利用者の生活支援が基盤であり事業所の持つ力としては環境面からも難しいと感じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員全員で自己評価に取り組み、グループホームのあり方の基本理解を深めるよう話し合いの機会を設けている。また外部評価の結果についても会議で話し合い、改善するよう皆で取り組んでいる。</p>		
<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>偶数月の第2水曜日家族会と同じ日に行っており、利用者の活動報告や外部評価結果の報告、改善点について話し合い実行している。全職員にも開催内容を報告しサービスの向上に取り組んでいる。</p>		
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>相談や会議、研修への参加など適正なサービス提供、質の向上に取り組んでいる。</p>		
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会や会議でも説明し利用者の状況に合わせ必要性について話し合い活用を検討している。</p>	○	<p>制度の理解を深めるため勉強会で取り上げ学ぶ機会を作りたい。</p>
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会でも虐待、身体拘束について取り上げ周知徹底し、都度、会議でも日常の中で何気なくしていることが本人にとってどうか、という視点で話し合い予防に努めており見過ごさないよう注意し合えるチームワーク作りに取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時には契約書や重要事項の説明を行っており、契約後も密に連絡を取り合い理解、納得の上サービスを利用していただけるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的に会話や様子からも思いを汲み取るよう心がけ、時にはご家族やボランティアの方から話を聞き不満等がある時には改善、対応策について話し合い随時解決に向け取り組んでいる。	○	常に話しやすい雰囲気大切に介護者としての対応に努める。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	日ごろから来訪時、電話連絡で利用者の状況を伝えており、ホーム便りや家族会でも異動や運営状況について報告、意見交換している。	○	毎月の便りのほかにも個別にカードや写真などを送り、日常の様子を伝えるよう取り組みたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部機関についても説明しており、家族会や来訪時、電話連絡の際にも意見など聞き取るよう努め、会議で職員に報告しご家族の思いも反映したサービス提供がされるよう取り組んでいる。	○	気軽に話して頂ける介護者となることを意識し、話し合い取り組みを深めたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関しては決定後の報告となってしまうことが多く個々に意見を聞くことはあるが組織的に行っていない。	○	会社運営と利用者本位、職員の待遇を考慮し互いにより良い関係で利用者に還元できるよう組織的に面談や話し合う機会を設けたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に合わせたサービス提供ができるよう当直を取り入れるなど調整し対応に努めている。	○	更に話し合い、勤務体制に無理がないよう話し合い柔軟な対応に繋げたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	日常的に他フロアへ積極的に行き来し交流の機会を持ち、合同の行事や当直制の導入でも全職員が利用者馴染みの関係となるよう取り組んで利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。入社時には勤務体験の機会を設け人選し長く勤めてもらうよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>19 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>毎月の勉強会で学び職員の力を高める取り組みをし外部研修や講演会等にもできるだけ参加できるよう機会を設け会議での報告により認識、知識の共有を図っている。</p>	○	<p>職員の勤務年数等に合わせて年間計画を立てる。</p>
<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>20 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>中央区の管理者連絡会や勉強会に参加している。また、近くの事業所への訪問など交流の機会も持っている。</p>		
<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>21 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>夜間帯の不安への対策、休憩時間の確保などできる限りストレス軽減に繋がるよう体制や環境づくりに努めている。</p>	○	<p>職員の意見も聞きながら利用者本位、会社運営を考慮してできることは更に取り組みたい。</p>
<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>22 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>介護における学びの機会を設け、日々の関わりを把握している。</p>	○	<p>面談や話し合う機会を増やし向上心を持ってもらえるように取り組みたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>23 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族からの相談による入居のケースが多いが、ご本人からも事前に話を聞く機会も設けて利用者本位である姿勢を大切に家族と共に話し合い取り組んでいる。</p>		
<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>24 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族関係についても考慮し両者にとってよい状態で関わるができるよう、入居後にも不安や心配ごとはないか思いを聞き取り対応することを心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現状と両者の思いを聞いた上で他サービス利用の可能性についても説明している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族の意向での相談が多く、本人が納得して入居するケースは少ないのが現実ではあるが、住み替えによるダメージについても説明し入居前にはできる限りご本人と見学に来てもらうか事前に会う機会を設けてご本人が安心できるようにご家族の協力もえながら支援するよう努めている。	○	本人の気持ちを大切にしながら、家族の介護負担も考慮し利用者が安心して暮らしていけるよう十分話し合い入居を受け入れたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	会話やささまざまな場面で学ぶこともたくさんあり、日々共に楽しく信頼関係を築きながら互いに支えあう関係を大切にしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とは常に本人やその周辺についての情報を共有し、どうしたら本人により良い毎日を過ごしてもらえるか話し合い協力してもらっている。また、他の利用者とも馴染みの関係を築いていただき本人の人間関係づくりにも協力してもらっている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人やご家族の思いを聞き取ることを心がけ、職員で話し合い互いの状況を理解し支援するよう努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所への外出や年賀状、手紙、電話のやり取りなど関係が途切れることのないようご家族とも相談し共に協力しながら支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日ごろから利用者同士の関係について把握し、状況に合わせた対応を職員間で話し合い仲介しすることで他者と関わり、支え合えるよう工夫し対応に努めている。またご家族にも協力して頂いている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	お見舞いに行ったり、自宅訪問したり関係継続している。以前入居していたご家族も気軽に立ち寄ってくれており、馴染みの入居者にも関わりを持ってもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や表情、様子から個々の思いを汲み取り、共同生活の中でできる限りの対応を心がけ、本人の思いが尊重されるよう職員で話し合っている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人やご家族、関係機関からも情報提供してもらい把握に努めている。入居後も生活の中や会話から新たな情報があれば職員間で共有し支援にあたっている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々個人の申し送りや介護日誌、引継ぎ等で心身状態やその日の過ごし方、についての情報を共有している。会議の中でも話し合い現状にあったサービス提供ができるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画作成、見直しの際には本人、ご家族と話し合い意向を聞き取り、必要なときには医師にも相談し会議で話し合い介護計画に反映するよう取り組んでいる。	○	アセスメントや評価は会議等で話し合い、内容を確認し皆の意見を反映させている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	会議や日常の申し送りで現状について情報を共有し、本人やご家族とも話し合い対応しているが、計画作成が見直し期間になってしまうことが多い。	○	対応できない変化が生じたときには随時見直し作成する。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その日の様子や気づいたことは個人の申し送りに記入しチームワークを持って介護支援にあたるよう情報を共有し介護計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	可能な要望があれば対応する。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会の回覧などで参加できそうな活動や行事について伝え意向や必要性について検討している。ボランティア活動も受け入れ利用者に合わせた支援に努めている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在他のサービスを利用している利用者はいない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の際に情報交換をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>43 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>協力医療機関の往診、外来受診や訪問看護を受けており日常的な健康管理や相談ができる体制をとり支援している。</p>		
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>受診には付き添い、日常を伝え何かあれば相談している。状態により医療機関を紹介してもらうこともあり適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		
<p>○看護職との協働</p> <p>45 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>協力医療機関から週1回利用者と馴染みの関係である看護師の訪問を受けており日常的な健康管理や相談ができる体制をとり支援している。</p>		
<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>46 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者の身体状況について医師に相談し連携して対応している。入院となった時には情報提供し、早期退院に向けての相談や安心して治療が受けられるよう連絡を取り合い協働している。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>47 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>家族会でも終末期について話し合う機会を持ち、本人やご家族の意向も早い段階から定期的に確認している。状態に合わせて家族と医師が予測されることを確認し、話し合う場を設け全職員が方針を共有できるよう取り組んでいる。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>48 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>日々の状況を把握し細かな報告をしながら本人にとって最良の状態を常に考慮しご家族、医師と利用者の苦痛の緩和やできることについて話し合い支援に取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>関係機関からの情報提供やできるだけ居室の雰囲気を変えないなどご家族にも伝えながら協力してもらっている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者本人の立場に立って言葉かけや周囲への配慮等常にプライバシーに配慮した関わりについて話し合い取り組んでいる。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者に合わせたわかりやすい表現の工夫と意思の確認ができるよう選択、自己決定する機会を意識して日々関わるよう職員一人ひとり取り組んでいる。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日の体調や気持ちを把握して臨機応変に対応することを職員は理解しその人らしい一日が過ごせるよう支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の好みに合わせた衣服の選択、整容をし、希望に応じて髪染めやカットに出かけたり、買い物等おしゃれの支援に努めている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者それぞれの持っている力を活かし、下ごしらえや盛り付け、味見をしたりして楽しくおいしく食事が摂れるよう支援し後片付けや米研ぎも一緒にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	持病を理解した上で本人の望むものを提供できるよう努めている。	○	コーヒーやドーナツを食べに出かけたり、好みのおやつを買いに行くなど外出の機会も持てるよう努めている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の失敗による不快感や落ち込むことがないように排泄のパターンや時間間隔、言葉がけに配慮し一人ひとりに対する支援について話し合い取り組んでいる。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	午後の入浴としているが利用者に合わせて午前になったり、体調や気分に応じて希望を聞いて対応している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の生活リズムを理解し、夜間眠れない時には温かい飲み物やそばにすることで安心してもらえるような工夫をし、その日の体調や疲労度を見極めて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの得意なことを日々の役割として発揮できるよう話し合い、楽しみや活力ある時間が持てるよう取り組んでいる。	○	米研ぎや食器拭き、編み物などそれぞれのできることを活かせる時間を大切にし、ドライブや買い物での気分転換できるよう努めている。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族とも相談し金銭管理の可能な方は所持している。買い物の際には一人ひとりに合わせて支払いなど使えるよう支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や季節に合わせて散歩や外気に触れる機会をつくり、用事のあるときには希望に合わせて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節が感じられるようドライブに出かけたり、ホテルでの会食などご家族と共に楽しみを持ちながら外出の機会を持っている。	○	個別に出かける機会を増やしたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望や必要に応じていつでも電話がかけられるよう支援している。ご家族へ手紙やはがきを出したり日常的に対応している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できる雰囲気づくりに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会でも学び理解を深めて日常の関わりを振り返り、全職員で身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	マンション玄関はオートロックになっており各フロアは開放している。居室も自由に入ることができるようになっている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士、常に利用者の所在や状況を把握し、プライバシーに配慮しながら確認し安全に過ごせるよう努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	内服薬はホームで管理しているが、一人ひとりの危険に対する認知力を見極めた上で安全に考慮し位置や高さ、使用時の見守り等支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	勉強会や会議など職員全体で利用者一人ひとりの状態について話し合い、どのような事故が起こりえるかヒヤリ・ハットを活用し予測しながら学び事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	ターミナルケアに向け、会議や勉強会でも定期的に話し合い学ぶ機会を設けている。	○	応急処置や初期対応の訓練を計画的に組み込む。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に職員、利用者が参加して避難訓練を実施し防災意識を高め、対応についてマニュアルを基に周知徹底に努めている。	○	地域の一員として周知してもらえるよう更に働きかけ、協働できることへの取り組みに努めたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	随時、身体状況や環境について現状を伝え、協力を得ながら自立支援の基リスクについて話し合い対応策を決めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの体調を常に把握し細かな申し送りによる情報の共有に努め、必要時には医師に連絡、相談し指示や往診対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の目的を把握し状態に変化がある時には医師に報告、相談し適切な処方に向けた支援を行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事の面でも食物繊維を多く含む食材を選ぶなど工夫し、運動も取り入れながら便秘予防に取り組んでいる。	○	回数や状態を把握し改善が見られない時には必要に応じて看護師や医師に相談し対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	利用者の習慣を把握しながら状態を理解して促しの工夫や見守り、介助等一人ひとりに合わせた支援を行っている。	○	往診歯科診療や口腔衛生も受けながら清潔保持に努めている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	持病の理解、体重など医師の指導も受けながら健康状態を把握し量やバランスを考えた食事提供に努め、一人ひとりに合わせ工夫をしながら確保できるよう支援している。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを基に予防や対策について理解し、うがい手洗いの徹底、消毒、加湿器の使用など全職員が意識し実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒や感染症について学び、アルコール消毒で台所の清潔を保ち布巾などは煮沸消毒を行っている。食材の保存状態の確認や安全な食材の使用など慎重に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	手作りの手芸品や季節に合わせたお花を飾ったり、あたたかい雰囲気大切に工夫に努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な雰囲気を大切にしながら絵や鉢など季節感のある空間づくりに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者それぞれが居たいところで過ごせるよう椅子を置いたり工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できる限り使っていた家具などを持って来て頂き、ご家族の写真や利用者の好み装飾など工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各部屋に温湿度計があり確認しながら換気をこまめにおこない、干し物等で湿度の調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	身体状況を把握し危険のないよう距離や配置、高さ等について話し合い、利用者が安全に、自由に行動ができるよう環境づくりの工夫している。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	日々利用者について理解に努め、混乱を招かない環境づくりに配慮している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	マンション前での日向ぼっこやベランダでの干し物、鉢の水やりなど危険のないよう注意しながら支援している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	① 一人ひとりの困っていることやどう暮らしたいかなど会話や表情から思いを掴み努力をしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	① ゆったり過ごすことを意識し、業務優先にならないよう話し合い一緒に過ごす時間を大切にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	① その日の気分や体調に配慮し一人ひとりが自分のペースで過ごせるよう職員同士で話し合い支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	② 利用者との関わりを大切にゆっくり向き合うことで笑顔を見ることができている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	① 可能な限り希望に沿って支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	① 日々の健康管理と訪問看護、往診が受けられる体制をとっており、不安のないよう支援している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	① 利用者一人ひとりについてよく理解し出来る限り要望に沿えるよう努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	② 連絡を取り合いながら話をする機会をもって信頼関係がより深く築けるよう努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	① 毎週曜日ごとにボランティアさんの来訪がある。

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目			
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	② まだまだではあるが少しずつ周知されて来ている。
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	① 業務に追われ心身共に余裕がない時がある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	② 常に努力し取り組んでいるが足りないことあると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	② 満足のできるサービスになるよう努力しているが足りないこともあると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ご家族と共に利用者が穏やかな気持ちで笑顔の多い毎日が送れるよう関わりを大切にしています。